

悠久の京を訪ねて Part IV Vol.9



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

府指定文化財：大道寺経塚出土品

■経塚に託された人々の願い

経塚は、写経された法華経などの経巻を経筒などに納め
地中に埋納した遺構です。奈良県吉野山の金峰山寺には平
安時代の貴族が造った経塚が多数あり、その中でも、藤原
道長が1007年に造営したものが現在、最古の経塚といわれ
ています。

経塚の起源はよくわかっていませんが、釈迦が亡くなっ
た後、56億7千万年後に現れてこの世を救う弥勒菩薩の世
に、經典や法具を伝えるために埋経することが本来の目的
であったといわれています。平安
時代後期、僧兵による闘争や大火、
疫病の流行に加え、悪のはびこる
末法の世が到来したという末法思
想が広まりました。このような社会
背景のなか、経塚が盛んに造られ
ました。

その後、経塚は、時代が変わる
とともに、極楽往生や現世利益、追
善供養などの人々の願いが加わり、
少しずつ目的は変化していきました。



経塚に納められていた銅製の経筒

大道寺経塚



■発掘で見つかった経塚

京都府内では約150件の経塚が確認されています。
発掘調査では、須恵器甕など経筒を納めた外容器だけ
が出土することが多く、銅製や鉄製以外の経筒はほとんど残って
いません。さらに経巻が残っているものはわずか十数例です。

昭和56年、福知山市大道寺跡の発掘調査において、鎌倉
時代の経塚が見つかりました。経塚からは和鏡、檜扇、土師
器・白磁の皿、北宋銭などが出土し、外容器の須恵器甕には
竹製経筒2点と銅製経筒1点が納められていました。さらに銅
製経筒の中には法華経8巻と阿弥陀経1巻が残っていました。
甕の中に雨水がたまり、空気から遮断されたため奇跡的に残
っていたと思われます。この経塚は、寺院に伴う古墓群に隣接
することから、追善供養のために造られたと考えられます。大道
寺経塚は、周辺の調査成果も含め、経塚を造った人々の思いや
納められた経巻の実態を
示す貴重な資料といえます。

なお、出土品は、昭和63
年に府の有形文化財（美
術工芸品）に指定されま
した。



発見された法華経